

## 第4回 立野小学校 授業研究会

### 講師

横浜市立美しが丘小学校	校長	松瀬 歩	先生
横浜市立並木第一小学校	校長	菅谷 泰尚	先生
南部 ハマ・アップ	指導員	保科 泉	先生
筑波大学附属小学校	教諭	辻 健	先生

### 授業者 個別支援学級

藤原 梨花 日下 彩 伊藤 周平 米山 香織

生活単元・生活科・理科

「ちいさなともだち～いきものをそだてよう～」

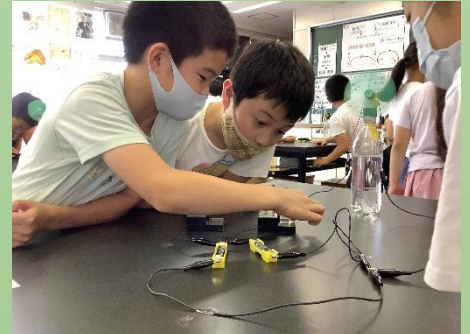


生活科の学習では、ダンゴムシが好きそうな食べ物を予想し、実際に与えてみて、その食べ物を食べる様子を観察しました。チーズとキュウリでは、どちらが好きかを調べたり、イチゴやバナナは食べるのか調べたりしました。個々の段階に合わせて予想を立てたり比較したりしながら、学習に取り組みました。マクロレンズとタブレットを活用し、より詳しくダンゴムシが食べている様子を観察できるようにしました。「ダンゴムシさんは食べるときにあしでチーズをもって食べるんだよ。」と体で実際に食べている様子を表現したり、「落ち葉だけでなく、チーズやニンジン、バナナをあげようと思います。」とダンゴムシの様子をじっくり観察し、今後のお世話の仕方を考えたりすることができました。

理科グループでは一人一人が生き物を育て、育てる中で見つけた問題をそれぞれが解決する学習を行いました。「ダンゴムシと他の虫の脚の数は異なるのか。」という問題を見だし、予想をする子どももいれば、「野生のメダカは何を食べているのだろうか。」という問題を調べるために、実際にビオトープの水を顕微鏡で観察する子どももいました。中には一つの問題解決を終え、「僕はこの問題を解決できたことが本当に嬉しいよ。これでもっとダンゴムシと仲良くなれた気がする。解決できたのもダンゴムシのおかげ。」と話す子どももいました。

講師の先生方からは、「子どもたちのダンゴムシの扱い方をみて、ダンゴムシに対する愛着が高まっている。」「個々のめあてに合わせて学習が進められ、個別最適化を意識した授業づくりができていた。」と評価をいただきました。

授業者 4年2組 神谷 有理  
理科「電流の働き」



「乾電池2個を並列つなぎにしたとき、回路の分かれ道の電流の大きさに違いがあるのか」実験を行いました。そして、得られた結果を基に、電流の大きさについて考えたことを表現するなどして問題解決を行いました。授業の中では、「電流が分かれ道のどちらにも流れた。」「分かれ道それぞれの電流の大きさをたし算すると、合わさった電流の大きさと同じくらいになる。」と結果を基に考察することができました。単元の終わりには、「並列つなぎは長持ちするから、使い方に合わせて回路のつなぎ方を変えよう。」という自分の生活に活かそうとする姿が見られました。

講師の先生からは、「乾電池を1本外すとどうなるのかを試したり、班の結果を改めて見て、もう一度やってみようとしたりするなど、じっくり観察しながら得られた結果を科学的に見ようとする姿が見られた。」とお話いただきました。

授業者 5年3組 宮野 凌  
理科「ふりこの運動」



「振れ幅を変えると、ふりが一往復する時間はどのようになるのか」実験し、その結果から、振れ幅と振り子の一往復する時間の関係について考察し、問題解決する授業を行いました。

授業の中では、「きちんと条件を揃えないといけない。」「この実験方法ではうまくいかない。やり直そう。」と正確に実験を行おうとする姿や、「ほとんど全ての班の結果が同じだから、一往復する時間は変わらないと言える。」と複数の結果をもとに考察するなど、良い姿が見られました。

講師の先生からは、自分の予想を深く振り返っている考察があったり、なぜその結果になったのかという原因について突き詰めて考えている考察があったりするなど、子どもたちの考察する力が育っていると話いただきました。